

災害派遣職員レポート

No.21 H23.5.30

平成23年5月27日20:30頃、気仙沼ケーウエーブの中心荘第二老人ホーム中村課長の報告

昨日の夕方からの活動ですが、今のケーウエーブはこれまでのごたごたを乗り切ったという感じがあるように思います。だから自分の役割は、高齢の方々が安心できるように、メンバー（神奈川県部隊5人+山形県部隊2人）がうまく動けるように、変わっていく情報を確認して、記録を更新していくことだと思います。

例えば、転倒があった方や、身体状況が悪くなってきた方がいたのですが、その方の記録がなく＝見られてなかったことがわかりました。これではまずいので、記録の無い方をチェックして、記録をメンバーが持ったままにしてないか、様子が見られてないならその高齢者は問題ないか、を見ていこうと思います。

今日は、高齢者の薬の変更情報などを看護師さんから受けて、帳票の内容を更新したり、それから高齢者はここが住みかではないので、次につなげるために、看護師さんと連携して、ケアマネにつながっていない方をチェックしていました。

高齢の方々は皆明るくて、人懐っこいです。ただ、入浴を渋る人が多いですね。帳票で入浴回数をチェックしてみると、1週間以上入っていない方もいました。「この人、××日入ってないよ」など、メンバーに指示を出したりしてました。

三浦副所長より

自分のすべきことが見えてきたようです。現地での活動を行いながらも、自分が残して来た認知症デイの様子も気にかけていました。大丈夫、残った職員で守ってるので、安心してケーウエーブの支援をして下さい。

理事長より

現地の地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、訪問介護・看護事業所、通所介護事業所などの復旧度合いはどのようなのでしょうかね。

今後、仮設住宅に入居する人々が増えてくれば、プライバシーの確保や居住環境は今よりは良くなるのでしょうか、これらのサービス基盤が確保されないと、避難所よりも介護が行き届かなくなる恐れがありますね。

今ケアマネに繋がっていない人を確実につけて下さい。

「入浴を渋る人が多い」話は、前にも他の職員が報告してくれました。認知症の人などにはしばしば見られることですが、認知症でないとすると原因は何でしょうかね。避難者の方々は不安が強いのは当然としても、たんなる不安だけで入浴を渋るわけではないように思います。むしろ生活意欲＝生きる気力そのものの減衰があるのではないのでしょうか。お一人お一人状況は異なるでしょうが、困難な状況だからそこ、単なる身体介護だけではない楽しませる介護が、平時以上に求められるような気がします。

陸前高田チームの中心子どもの家 伊崎さんより

本日、全社協からのパソコンが手元に届きましたので、現時点での活動内容・被災地状況等をご報告いたします。

陸前高田市の周辺の宿は工事関係者等でうまっており、今日も車で片道2時間近くの一関市の宿でメールを作成しています。

早朝の出発・災害ボランティアセンターでの朝のミーティングから、夜の全社協への活動報告書の作成・送信まで一日中活動していますが、本当に時間が足りない状態です。

宮城県東松島市での送迎車贈呈等の様子は、添付ファイルにてご報告とさせていただきます。

【陸前高田市の様子】

瓦礫撤去作業が行われていますが、場所によってはほとんど手つかずの場所があります。今後、3年間かけて終わらせる予定とのこと。

電柱をたてている作業がみられ、水道や固定電話が最近使用できるようになったとの話を聞きました。ライフラインは、徐々に整いつつありますが、場所によってはまだ整っていない状態です。徐々に仮設住宅ができてきていますが、まだ避難所で生活している方も多くいます。仮設住宅利用が2年間という話なので、その後の生活を心配されている方もいます。

仮設住宅への食糧配給が6月10日で終了するという事です。その後の食糧確保への不安も出ています。被災直後を無我夢中で乗り越え、少し落ち着いた生活の中で気が付くと孤独感や喪失感を持ち、自殺者が出ているという話を聞きました。心のケアを強く意識して活動を展開したいと思います。

【現在の活動】

陸前高田市の市社協の常勤職員が被災により全員亡くなられており、非常勤の方も被災による影響で精神的に参ってしまっている状況です。そこで、中心会職員2名（2週間滞在）と職能団体派遣職員2名（3日滞在で交替）の4名が一つのチームとなり、陸前高田市市社協として主に以下の活動を展開しています。

①陸前高田市内の独居老人・高齢世帯の訪問

→仮設住宅や自宅を訪問し、状況把握やニーズ調査をしています。

本日の一例をあげると、本日のニーズ調査では、夏服や寝具の不足が出ていたので、社協の担当者に供給依頼をしました。

②仮設住宅でのサロンの立ち上げ

③ふれあいネットワークメンバーの安否確認・見守りの継続

自分達の活動の質や効率を高めるための工夫を行っています。本日、日ごろの活動を記録として残し今後の活動につなげるために「活動日誌」の書式を作成しました。明日からこれを活用して活動します。

こちらは、まだまだ混乱状態であり、社協としてもビジョンを持ち切れていないのが現実です。その中で、ビジョンの提案を含めて、復興のために何が出来るかを自分たちで考えて行動することが求められていると思います。限られた期間ですが、陸前高田市の方のために少しでも力になれるように一生懸命活動したいと思います。

陸前高田の避難所（市立第一中学校）で活動中の新庄職員（えびな南）の報告

今日は午前9時に夜勤を終えた後、12時まで仮眠を取り、12時から21時まで活動を行いました。

早速午後からは持参したロールピアノを弾いて、避難されている方と一緒に歌を歌いました。皆さんとても喜んで下さって、「明日も歌おうね!」と言葉を頂きました。

また、皆さんとはだんだんと打ち解けられてきて、色々とお話ができるようになってきました。何人かの方はもう私の名前を覚えて下さって、「恭子ちゃん」と呼んでくれています。

今日は岩手県社協の方がここに来られています、「あなたの話し方は岩手県の人と似てるから、きっとみんなに好かれるよ」と言ってもらえました。また、避難されている方の1人が「1日で岩手の人になったねえ」と言って下さいました。とてもありがたいことだなあと感じます。

今日はえびな北の渡辺相談員が訪問に来ました。同じ法人の仲間と会えることはとても心強いです。自分の活動はまだまだ始まったばかりですが、充実した1日1日を過ごしていきたいです。

明日は午前6時からの活動です。また、準夜勤もあります。体調管理には充分気をつけて、明日も頑張ります!

昨日はここへ来てから初めてお風呂へ行ってきました。お風呂は第一中学校を降りたすぐそばのところに公民館で無料に開放されています。(12時~22時まで)

お風呂の帰りに被災地の景色をしっかりと見るために、周辺を少し歩いてみました。目の前に広がった景色は本当に恐ろしかったです。瓦礫の山々や、ガラスの破片が辺り一面に飛び散っていました。また、ぬいぐるみや子どものおもちゃとかが入っているケースが置いてあり、何か込み上げてくるものがありました。このおもちゃの持ち主の子どもは助かったのだろうか?それとも…などと考えてしまい、とても悲しい気持ちになりました。また、避難所に戻ってから、デイケアの見学に行っておられた方に、パンフレットに書かれている料金表の見方がよくわからないと話があったので、その方に分かってもらえるように話をさせてもらいました。「そういうことなのね!」と言葉をもらうことができ、相談員をやっていた経験がここで活かされて嬉しかったです。また、今日は接骨院に行かれる方を車で送っていたり、ボランティアスタッフの1人が歌集を用意して下さいましたので、私の伴奏に合わせて、避難所にいらっしゃる方全員で歌を歌ったりしました。皆さんとても楽しんで下さり、「また歌いたいね」と言って頂きました。

今日、陸前高田の避難所に入った えびな北高齢者施設 佐藤善孝職員の第一報です。

新庄職員と同様に、楽しませる介護、和ませる介護に心を使ってくれています。

苦しい、悲しい、つらい、不安だからこそ、介護者のかかわりが重要であることが、佐藤職員の報告からも分かります。後続の職員の皆さんも心がけて下さるようお願いいたします。

本日、予定通り 12 時 25 分避難所に着きました。渡辺さんと引き継ぎをすませた後に待たせてるタクシーで渡辺さんは帰りました。新庄さんから細かい説明を受けました。

新庄さんはピアノを弾き、皆さんと歌を唱い避難されている方々と頑張っている姿に感銘を受けました。私は、名前を覚える為に、一人一人とじっくりとお話しをさせて頂きました。

家を無くし、息子さんを無くした。その嫁さんが孫を連れて実家に帰って離婚した。孤独感が漂い全く元気がない。その話しを伺い涙が止まりませんでした。少しでも同じ空気を吸おうとみんなで大きな声で歌を歌い、手品を披露したり、まだ早い盆踊りをしました。着いてから直ぐにフルスロットルです。

日本介護福祉会の方々は 1 日に帰るので新庄さんと助け合ってやっていきます。

今日は、17時から明日の12時までの勤務のようです。A クイック（消毒薬です）は貴重で重宝されています。代表者会議に出席しました。2日～3日程度でメンバーが交替されています。高齢被災者の為にしっかりと伝えて行き、安心された生活を提供したいと心を新たにしました。これから介護記録、サマリーに目を通していきます。

菅原所長より

佐藤主任は、本日、岩手に入ったばかりですが、「フルスロットル状態」で活動しているということです。長丁場ですので、息切れしないように・・・。

佐藤さんは自分の得意分野の「楽しませる。」ことに集中してケアすると決めて気仙沼に行きました。少しの時間でも、みなさんが「不安な事」を忘れて、「あはは・・・あはは・・・」と笑顔で、笑って過ごせることができるようにすると言うことを実践しています。

今後、どのような課題を見つけアプローチしていくか。報告を楽しみにしたいと思います。

災害派遣職員レポート

No.22 H23.6.1

5月31日から6月6日までの予定で、気仙沼で活動する えびな北 青木玲子さんと 中心荘 中和伸弘さん、交替で6月1日に帰ってくる 同じく中心荘 中村真紀さんからの報告です。

えびな北 青木さんの出発前日の深夜の決意表明です。1：00ころのメールです。

さっきは電話ありがとうございました。体調管理をしっかりし、がんばって来たいと思っています。

私は、被災地の方々の痛みや苦しみ、喜びなどを介護を通して共有してきたいです。

そして、みんなに発信していけるような人になりたいです。

1週間という短い期間で、どこまで心を通わせられるかは分かりません。

もしかしたら、受け入れてもらえないかもしれません。

でも、私は私なりに1人1人と向き合い、関わっていきます。

急にすいません。一応、ちゃんと目標を言っておこうと思ひまして。明日も早いので、がんばって寝ます。またメールします。

菅原所長より

寝る前にたくさん考えたのでしょうか。課長に決意をしっかり伝えたかったのでしょうか。青木さんは、日々のケアの中でもご利用者心に寄り添ってケアをしています。

ご利用者が、「青木さんは今日はいないの?」と、「青木さんが良いのよ。」と……。強い信頼を持っていただいける関係築くことができます。観察力もあり、ちょっとしたご利用者の変化に気づくことができます。

「みんなに発信していけるような人になりたいです。」と青木さんは言っています。

青木さんの「気づき」を介護チーム・他職種・他機関に発信されて、在宅生活に結び付けられる様に活動してくることを期待しています。

青木さんより 派遣1日目の連絡です。目標に向かい青木さんらしく動こうとしています。

夜分遅くにすいません。先程、今日の勤務が終わりました。

夜ということもあって、利用者さんと関わるのが少なかったです。何点か気になる点も出てきました。また、周りの職員の方が経験年数6～7年ぐらいという方が多いです。

こんなこと言ったら失礼かもしれませんが、「この前派遣に来てた人達も2～3年の人が多かったんだよね」と言われました。言った本人は、悪気があって言ったわけじゃないと思うのですが、私には経験年数が少ないから、居てもあまり役に立たないといったように感じとれました。

だから、明日から勤務時間じゃないときにも利用者さんに会いに行き、話したりして、誰よりも関わっていき、私にしか出来ないやり方で関係を築いていけたらなと思っています。

菅原所長より

彼女には悔しいことがあったようです。「闘志」に火を付けられた感じですか。いつものおっとりした青木さんの印象とは違っていています。

自分が派遣先で活動する目的を達成させるために、「勤務時間じゃないときにも利用者さんに会いに行き、話したりして、誰よりも関わっていき、私にしか出来ないやり方で関係を築いていけたらなと思っています。」と決めたようです。頑張れ青木さん!!!

中心荘 中和職員より 5/31の夜、電話で。

16:00 から 2 時間ほど、中村課長から引き継ぎを受けました。

唐澤課長、中村課長の残していた土台がしっかりしているので、これから 1 週間、リーダーとして、頑張ります。情報収集し、被災者が問題なく楽しめるように、皆が動けるようにやっています。

避難所を離れた時のことも考えて、リハビリもある程度プログラムされているようです。体育館内にいたある方が、今はいない、行き場所がわからない、という情報が入ってきました。このようなこともあるようです。把握していきたいと思います。

三浦副所長より

避難所にいる方のためにやっという決意表明をしてくれました。生きがいを持ってもらえるような、避難所を離れても生活が継続できるような援助をしてくれると思います。

中心荘 中村職員より

今日で最後、引き継ぎを行いました。

車中泊をしているおじいさんがいらっしゃって、今日はその方にも保健師と共に関わりました。

かたくなに体育館に入らない。家族は車中と避難所を行ったり来たりの生活。どうやら過去には保健師が関わっていたようですが、担当が次々交替する中で記録が途絶え、現在どのような人か見えてない状態でした。車中泊をしている理由は明確には分かりませんでした。今後、こまめに伺って信頼関係をつくっていく必要があると感じました。

ケアマネにつながった方は、一覧に残しています。過去の記録を見ると、何週間か前にも確認作業は行われていたようですが、それが途絶えていました。職種間の情報の引き継ぎが上手くいっていないためと思えるので、しっかりした記録と引き継ぎが重要です。

代替食の課題もありました。アレルギーのため食べられない食事のある方に、その食材を取り除くことができない場合には代替食を提供して欲しいのですが、それができない状態です。看護師や栄養士と、管理していると思われる事務所にそのことを依頼しても取り合ってくれません。今後につなげていきます。

三浦副所長より

様々な課題がありますが、やはり短い期間では全てに手を打てないようです。後続の皆が引き継いで、他職種を巻き込んでやってくれると思います。1 週間でしたがご苦労様でした。

災害派遣職員レポート

No.23 H23.6.2

陸前高田で活動中のえびな北高齢者施設 川村由香職員からの電話報告です。

進展と言うか……。今まで何だったの……。って状況です。

被災地に派遣されている医療チームが、渡辺さんたちが個別訪問した所はすでに廻っていたようです。無駄が出ているので、今日は医療チームと話し合いを行いました。

情報収集用紙を作成していたので、医療チームの用紙と比較したのですが、同じような聞き取りをしていました。同じような事を何回も聞きとられることは、被災者の方に迷惑になってしまうので個別訪問はしなくて良いということになりました。医療チームが訪問をやって社協に情報提供してくることになりました。

海老名市の地域包括の動きとは違って、市社協と包括の連携が無かったそうです。

市役所に包括の事務所があって、利用者情報のやり取りが全くされていなかったようです。

民生委員さんにも包括、行政から情報が流れていません。個人情報だから情報提供できないと言われていたようです？

民生委員の役員会があって、役員さんたちはやる気があって何とかしなくてはと思っているようですが、このような状況では何もできないって嘆いていました。この点の改善が可能なものかと悩んでいます。

今後は、支援サロンを立ち上げる仕事を中心に行っていくことになります。

一か所立ち上げてそこをモデルケースに展開するようになります。

小学校に教室を借りるか、青空的に外でやるか……。場所の確保が難しいようです。

今日偶然にも、中心会って書いてある黄色のジャンパーを着て人を見かけました。佐藤善孝さんでした。本当に偶然です。被災者の方と散歩していました。岩手で偶然に、仲間に会うってすごいですね。明日は、お休みなのでボランティアセンターをのぞいたり、児童養護施設に行ってみようということになりました。

菅原所長より

少々自信なさげだったので……。再確認で、誰のために、何を目的に被災地に行くことにしたのだけ？？と問いかけました。「そうですね。頑張ります。」と返ってくれました。

菅原からの提案として：サロンについては、陸前高田の介護チームがすでに介護用の教室がサロン化した状態で展開できていると報告があるのだから介護チームの佐藤さん・新庄さんに協力してもらってそこをモデルケースにすればいいのではないかな。

中心会のメンバーだから構想をつたえれば絶対に動いてくれる。寝る場所・食べる場所を違えることなどの課題を持って活動しているから、布団だって昼間は片づける関わりをしてくれるのではないかなと思う。そうすればみなさんがくつろげる場所は確保できるのではないかな？

一から立ち上げるというよりは、陸前高田の介護チームの活動を活かせると思うのだけど……。と伝えました。

佐藤善孝さんと、新庄さんに連絡して、川村さんに「サロンの立ち上げ協力するよ。」って言うてもらおうようにします。

手探りの活動って、やっている本人たちは苦しいものなのだろうね。成果が見えにくい活動のようです。でも、全て成果を出せるものではないから、自分がその場に行っていくことを、感じたことを伝えることができれば良いのではないかな。

おまけ。(たまたま中心荘にかけた電話に出た杉山さんとの会話です。)

中心荘の杉山相談員が、「被災地に行って来て良かったです。言葉を選んで、傷つけないように、この言葉で相手はどのように思うのかなって考えながら話すようになりました。」

「今までの、相談業務では、全くそんなことを考えていなかった。」

「ご利用者・ご家族がどのように感じるのか、どのように考えなら自分の話をきいているのかをすごく考えながら話すようにしています。」 杉山さんは、この経験でこんなに成長しました。その成長を自分で感じていることが素晴らしいです。

理事長より

杉山さんの経験、経験の受け止め方、素晴らしいですね。「ついでの電話」で、杉山さんのこれだけの言葉を引き出した菅原さんも、さすがです。

市社協は正規職員が全員死亡していて、今は、県社協主導で、市内各地域の高齢者、障害者、子どもなど幅広い要援護者のためのサービス拠点(サロン)を立ち上げようとしているようです。全社協が岩手県社協から把握した状況は次のとおりです。

1. 6日(月)からの中心会のチームには、市内13地区のうちの「タケコマ」地区というところに集中してもらう。
2. この地区では、対象者の所在把握の段階から、今後は、これらの対象者に対する実際のサービス提供の段階になる。(これまでの「調査」には、ムダや非効率が多かったようですが、全体としては、それなりの進捗はあったようです)
3. 活動内容は、①サロンの立ち上げ(場所は確保済みのようです)、②対象者に対するサロンの存在の周知、サロンでの実際のケア活動(高齢者だけでなく、障害者のケアや子どもの保育など、幅広いケア活動が想定される)、③サロンを拠点にして、地区の高齢者、障害者、子どもがいる世帯などに対する日々の訪問・安否確認・困りごと聴取等、④それに対する実際のサービス提供等。要するに、通所と訪問、場合によってはショートステイというかたちでしょうが、対象は、高齢者のみならず、幅広い年齢層に及ぶものと想定されます。⑤これらの諸活動を自分たちが進めるのはもちろんだが、民生委員や住民の協力を取り付ける。

これまでの調査活動では、それに従事した職員には、非効率、混乱が目についたと思います。それでも、少しずつ状況は前に進んでいるようです。各機関もみな、初めての状況の中で活動しています。初めての中での失敗、非効率、混乱は不可避です。それでも、中心会の職員を含めて、外部からの支援活動は状況を少しずつでも、前に進めていると思います。

災害派遣職員レポート

No.24 H23.6.6

気仙沼で活動中の中心荘 中和職員からの報告です。

午前午後と6時間位カンファレンスを行います。というのは、今、仮設住宅へは2日に1回20人位の方々が移られます。その方々が仮設に移った後、どのようなサービスが必要なのかを他職種と検討するからです。でも、勉強になります。施設では地域包括の職種とは関わりがありませんが、ここではそのような方々の意見も聞けるので。

それからこの避難所には、新しい被災者がぞくぞくと移ってきます。ここは大きな避難所で、周りの避難所が縮小・閉鎖されることで、そこから移って来るからです。これらの方たちの把握も大切な仕事です。

三浦副所長より

避難所から仮設の生活になる方、新たに避難所を移して生活される方、それから共に活動する仲間のために行動してくれています。

気仙沼で活動中のえびな北高齢者施設 青木職員からの報告です。

こんにちは、利用者さんに少しずつ名前を覚えてきてもらい、かまってもらっています。職員同士も食事の時中心に話すようにがんばっている所です。私はA勤なのですが、B勤の人とは引き継ぎぐらいしか話せる時間もなく、食事と一緒に摂れないなどで、ゆっくりと話しが出来る時間がないのが残念です。利用者さんに関しては「もうすぐ帰っちゃうんだね。親しくなってきたころに帰っちゃうから寂しいね」と言ってくれる方が多かったです。

すかいらくさんが食糧を提供してくださっています。今後は一般の方だけでなく今後は高齢者向けのメニューを提供して下さるよう提案しようと思っています。

菅原所長より

中和職員（気仙沼派遣中）や気配りしてくれた仲間の方の支えによって、本来の青木さんらしさが出てきています。中和職員ありがとうございます！

災害派遣職員レポート

No.25 H23.6.6

陸前高田で活動中のえびな北高齢者施設 佐藤職員からの報告です。

こんばんは。元気でやっています。そちらはお変わり有りませんか。私達がボランティアをしている絆の丘K(高齢者避難室の呼称)での最大の関心事は仮設住宅に当選する事になっています。避難している中学校の校庭に仮設住宅150個建設中で一部引っ越しも始まり、最大の話題性です。仮設住宅に入居された方々へのケアも整っているように全体ミーティングから知る事が出来ます。ここの避難所には500名ほどの避難者がいますが、感染者が30名ほどに滞ったことで驚きの声があると報告がありました。

私たちの大きな仕事の目的は避難者が今後、仮設住宅に移られた時に生活不活発病にならないようにリハビリテーションを中心の生活に切り替えています。寝たきりでオムツをしていた人でも今では、自前のパンツを履き杖をつけて自分でトイレに行けるまでになりました。

又、少し歩ける人には外に出て歩行訓練しています。仮設住宅に移っても困らないように頑張っている姿には震災を乗り越えようとしている気概とダブリこっちが励まされます。PTの先生や体操の先生が来れない時は私が引き継ぎ、ADL向上へ真剣に取り組んでいます。

岩手県介護福祉士会、日本介護福祉士会、中心会の全国社会福祉協議会、ボランティアの4つの団体をまとめる訳ですから大変な役割を担っています。色々な意見をまとめるのに能力を費やされます。今日、仮設住宅に移動する人が6人決定しました。後6人残ります。7月中旬で完了の計画のようです。また、連絡致します。

菅原所長より

絆の丘(高齢者避難室の呼称)って良いですね。いつからそのように呼んでいるのでしょうか？

仮設住宅に移る方の心と体の準備と、仮設住宅に移ってからの支援と両方が進んでいかないとバランスがとれないですね。

在宅支援がやはり充実させないといけないということが次の課題のようです。

やはり、サロンのような、人が気軽に集まれるような場所の確保と、そのような場所があるということの宣伝・周知が必要ですね。

民生委員さんがそのようなところに関われば、知り合いがいるから安心なのでしょうね。近所の仮設住宅に移れる人ばかりではないから、知り合いになれるためにつなぐ活動も必要ってことですね。

メールから、佐藤職員の活躍ぶりと、緊張感が伝わってきました。人をつなぎ、意見をまとめることに心を配っている様子が見えます。

災害派遣職員レポート

No.26 H23.6.7

気仙沼から6日(月)に帰着した中心荘 中和職員の報告

自宅に到着しました。スタッフの一人が熱でダウンし4(土)に救急搬送されましたが、感染症ではなく点滴を受け大事には至りませんでした。そのため、3名体制にしていたえびな北の青木さんのチームも2名体制に戻さざるを得なくなりましたが、青木さんも当初心配していたことはなく、高齢者のために頑張ってくれました。

先週末から二つの課題がありました。活動期間的に自分たちでは解決できなかったため、次に引き継ぐことにはなりました。ひとつは、高齢者の方の中に仮設住宅の申し込みをされていない方がいたことです。ケアマネにもつながっていない方もいました。このままでは6月には医療提供が、8月には食料の配給がなくなります。土～日曜は市の職員も体育館には来ないため、保健師と話をし、今日気仙沼市の職員に、これらの方たちが仮設の申し込みができるように、そして医療が途絶えた時にはヘルパーによる通院につなげてもらうように依頼しました。

それから、サロンのような活動ができる場所を提供して欲しいことも、気仙沼市の職員へ依頼しました。明らかに認知症が進行している方や体力が落ちてきている方がいるので、体育館内で高齢者の方々を集めて歌を歌ったりしたのですが、周りからうるさいと苦情が出てしまいました。体育館内にはそのような活動ができそうな場所があるのですが、市から、その場所は感染症が発生した時に使用するとのことですら使わせてもらえませんでした。

これらは二つは、神奈川県にも報告し、第9隊にも引き継いできました。

仮設住宅の発表が度々ある中、当たった方の喜ぶ姿、はずれた方の悲しむ姿が混ざり合った場面を目にするのは、何ともいえず辛かったです。でも、高齢者の方は皆明るい方ばかりでしたので、救われました。

三浦副所長より

月曜日が最終日という関係で、動きが取りにくい部分があったようです。でも次につながるようにしてくれたので第9隊に期待したいです(残念ながら中心会ではありませんが)。施設業務では経験できないことが多く、とても勉強になった。高齢者の方々の今後の心配との話もしてくれました。避難所での経験(リーダーシップ)は、施設でも利用者のために活かしてくれると思います。また、今後も派遣による支援は必要ですので、よろしくお願いします。

お疲れさまでした。

理事長より

「仮設住宅の申し込みをされていない方」や「ケアマネにもつながっていない方」がいることを把握し、これを市の職員につなげたこと、「サロンのような活動ができる場所」の必要を認識し、場所の確保を申し入れたことなど、利用者のもっとも身近にいる介護職員ならではの働きです。中和さん、お疲れさまでした。

岩手県陸前高田に向かった えびな北高齢者施設 原山職員の報告

お疲れさまです。無事 盛岡につきました。

合流した社協のかたに、陸前高田での派遣の現状をお聞きしました。

やはり、少し気持ちの部分と現実とのギャップに戸惑いがちなようです。

気負わず出来ることをして下さいと言われました。

自分に何が出来るかわかりませんが、自然体で役割を見つけたい、と思っています。

触れ合えた方々のお話を聞き、感じることで、少しでも何かが共有出来れば、そこから私に出来る小さな何かが見つかるかもしれない、と信じて明日陸前高田に向かいます。

菅原所長より

「いつもじっくりとご利用者・ヘルパーの話を聞き、言葉を引き出すことができる」原山さんの感性が生かされることと思います。

原山さんは、すごく緊張して出向きました。原山さんは、訪問介護係でサービス提供責任者として仕事をしています。その活動の中でいつもじっくりとご利用者・ヘルパーの話を聞き、言葉を引き出すことができる方ですので、被災者の方を癒しながら話を聞くことができると思います。

災害派遣職員レポート

No.27 H23.6.10

陸前高田で活動している えびな北高齢者施設 原山職員より

陸前高田に来て3日目終了しました。

主な活動として、仮設住宅の見守り訪問とサロン開設の準備をしています。竹駒地区でのサロン開設が、6月28日にほぼ決まりました。今日はチラシの作成と、釜石のサロンの視察をさせて頂きました。どの地区でも、孤独な方を作らないよう、努力されている様子を感じることが出来ました。

仮設住宅への入居も始まり、落ち着きと並行して、張り詰めていた気力が途切れる頃かもしれません。気軽に寄れる場所を作る事の役目はやはり必要だと思います。

私達の派遣の方向性も見えて来ているので、活動はやりやすくなっています。やりたい事が沢山あり、時間が足りないですが、周りとのバランスを取りながら、焦らず少しでも進めていきたいです。

同じく陸前高田の避難所で活動している えびな北高齢者施設 佐藤職員より

メールありがとうございます。元気が出て来ました。相原さんが元気に合流し、色々と細かな引き継ぎをしています。岩手介護福祉会が完全に手を引きましたので避難所本部、高齢者避難所を仕切っている社協と細かな情報の共有が求められています。仮設住宅に移動された方々が生活不活発病にならないように保健師、看護師、pt、ot、と打ち合わせをして訪問したりと、対外的な仕事ぶりが求められています。仮設住宅に移られた方々を実家に来てもらってサロニックな雰囲気体操、リハなどやれるように本部かけあい実現しました。志水さんは本部や社協、pt、などに振り回されることもあると思いますが、避難者の話を良く聞いて対応することが一番だと思います。早く来ることを楽しみにしています。

原山さんと松下さんが面会に来てくれました。感激で涙が出てきました。

此处で学んだことを北で大いに生かしていきたいと考えています。夜勤にて====。

菅原所長より

佐藤主任・原山さんが現在、活動中です。本日、川村さんが帰ってきて初出勤です。

川村さんが、悩んで発信してきたことが整理され、原山さんが引き継ぎ、サロンが立ちあげられるまでに計画が立ちました。「今日は、避難所で、テントを張って、お茶会を開くことになっている。」と原山さんから報告でした。

いろんな場所でのみんなの活動がつながって中心会の活動が目に見えてきた！！！！って感じですね。素晴らしいですね。

これから、えびな北からは、志水さん・西さんが向かいます。すでに、二人からは、被災地に向かう緊張感が感じられます。みなさん、本当にありがとうございます。

災害派遣職員レポート

No.28 H23.6.13

気仙沼で活動している 中心荘 福園職員より

お疲れ様です。福園です！今、バスで宮城に向かってます。県職員から聞いた話ですが、これから先ケーウェーブには他の避難所にいる高齢者を集めようとしているとの話がありました。今も実際他の避難所からケーウェーブの方に移られている方々もいるようです。

バスの中で簡単なオリエンテーションとリーダーとシフトを決めました。

今回のメンバーは介護経験5～13年と経験をつまれている方が多く、私は介護経験が一番少なく最年少です！介護経験が少ないですが、自分なりに気付いた事、やって行きたい事など他のメンバーに積極的にアプローチしていきます。

また以前行ったメンバーがまとめてくれたであろう、業務内容と利用者状況などのレポートを読んでやっと状況が把握出来てきました。また連絡します。

福園職員上記報告より2日後に再び報告がありました

お疲れ様です！福園です。連絡出来なくてすみません。ケーウェーブでは神奈川の他に長野県の方々とシフトを組んで活動中です！先日副所長と電話で話をしましたが、サロンについて場所はまだ確保出来ないみたいです。なので要支援者がいる班内の空いてるスペースにテーブルを作ってみました

ソファーと段ボールで作った板の簡易的な物ですが、午前中はみなさんが集まり、賑やかにレク(折り紙、あやとり、トランプ、お手玉等)をしたりお茶会したりと活用出来てます。ただ食事の際は一人で食べたで召し上がっている方もいます。添付の画像は午後のもので

避難所の方々も親切な人ばかりで、要支援者や私達に良く声をかけてくださいます。あと4日頑張ります！



三浦副所長より

工夫して、手作りで憩える場所をこさえて、活動してくれています。福園さん、ありがとうございます！

災害派遣職員レポート

No.29 H23.6.13

陸前高田で活動している えびな北高齢者施設 原山職員より

サロン立ち上げを中心に、毎日活動しています。

サロンは二種類で、ひとつは公民館で週一回行う介護予防型のもの、もうひとつは仮設テントをはり、毎日行うお茶飲み場型の青空サロンです。仮設テントの設置はすでに終わりました。備品等揃えて、青空サロンは私達のいる間に開設出来るといいな、と思っています。思うように進まず、焦るときも正直ありますが、長い目でみなきゃと気持ちを切り替えています。

菅原所長より

サロンの立ち上げが現実的になってきているようです。ニュース等見ていると仮設住宅に入っても生活ができない状況の方がいると言われていています。通院できない、生活費がない、引っ越しができない等のいろんな問題が出てきています。原山職員たちが作っていくサロンが、地域に根差して行くようにしっかりしたと基礎づくりが大切ですね。

同じく陸前高田の避難所で活動している えびな北高齢者施設 佐藤職員より

Tシャツにがんばっべしを合い言葉にして書き、

皆さんにプレゼントをして絆の和を広めています。

結構喜んでもらっています。

年齢が身体に悲鳴を与えているようであちこち痛みだしました。中心会の仲間に岩手県でも会えて、こうやって神奈川とも繋がりをもっていることがとても感動し、パワーをもらえます。

菅原所長より

「絆の丘」 Tシャツを自分で作ったのですね。

白Tシャツを持って行ったのかな？

準備周到ですね。佐藤主任らしい発想です。

二日前に電話をくれました。

そのあとにメールをくれました。写真つきです。

かかっている絵は津波に流されなかった唯一の木です。



災害派遣職員レポート

No.30 H23.6.14

陸前高田に着いた、えびな北高齢者施設 志水雄一職員より

高田一中に着いて、佐藤さんと30分ぐらい引き継ぎをした後、相原さんに（リーダー）ここでの動きを説明された。

勤務表があり、本日は、準夜勤（17時～1時30分）の勤務からスタートする事になっていた。絆の丘の人は、着く前に通院され、本日入院された為、見守りが必要な人が2人と少なく、自立の方が6人です。

みんな良い人達で、佐藤さんの代わりで来た俺をすぐに受け入れてくれました。

16時から、全体ミーティングがある為、16時まで、皆さんと話をしたりして、過ごし、全体ミーティングに参加・トイレ掃除・食事前の口腔体操・食事準備をして、一緒に食べたり等、えびな北の延長線のように感じました。

明日から、ここで生活されている人達のニーズに答えられるように、頑張ります。

一応、工作中なので、初日の報告終わります m(_)_m

菅原所長より

佐藤主任と30分の引き継ぎで、「絆の丘」のバトンタッチをしたようです。

派遣されている職員、一人一人が個性的な関わりをしています。志水さんは、どのような展開をしてくるのでしょうか。志水さんは、直接介護ってことよりも、自宅・仮設住宅に行く為の準備をするためのかわりが主であるため、自分ができるかなと不安を持ちながら、現地に行きました。できるのですよ。やるのですよ。悩んでも自分で考えて行動するしかないですから……。これからの報告が楽しみです。

交代で陸前高田市から帰って来たえびな北高齢者施設 佐藤主任から

志水さんと引き継ぎをして帰りの途につきました。2週間でやることはやったと達成感で一杯です。我、人生に悔いは無い。と言った心境です。

震災をテレビで見っていた時に、その光景の凄まじさに背筋へ電流が走り、自分のやれることは何かと考えていた時、被災地派遣の話しが飛び込んで来た。これだと咄嗟に我先に手を挙げて 今回、皆さんのおかげさまで貴重な仕事をさせて頂きまして本当に感謝の気持ちで一杯です。

避難所では避難されている高齢者から逆に励まされ勇気を貰いました。陸前高田の人々の優しさやポジティブな考え方は、何年か後には世界に誇れる復興を遂げると信じて疑いません。今回は、高齢者の生活援助よりは看護師、保健師、pt、st、一般ボランティア、大学生実習ボランティア、病院への手配などなどに精力を費やした。後は仮設に移った方々が発信してくれればいいんだけど。長々ごめんなさい。===

このあと電話がありました。

「すっごくつかれた。でも悔いはない。背中を押してくれてありがとうございます。感謝です。明日は箱根に行き温泉に浸かります。」とのことでした。

悔いがないと言い切れることが素晴らしいと感じています。佐藤主任本当にお疲れ様です。

菅原所長より

佐藤主任が、被災地派遣での活動にすごく満足してすごく達成感を感じられて帰って来た様子です。何がそんなに満足できたのか、達成感が感じられたのは何だろう。

聞きたいですね。わくわくしますね。どんなことだったのかね？

まずは、箱根でゆっくりしてもらって、帰ってきたらみんなで聞きましょうよ。

佐藤主任の成果を！！

気仙沼の避難所で活動中の中心荘 福園和代職員より

＝最年少に臆せず、頑張っているようです＝

先日写真を送ったように、午前中に避難所内で歌を歌うなどのレクを行うことで、皆さんが少しでも身体を動かしてもらえるようにしています。以前の気仙沼の報告で、周りの方から苦情を頂いたという話も聞きましたので、状況を見ながら行っていますが、今は特に迷惑だと思っている方はいない様子で、皆、楽しそう！という温かい目で見てくれているようです。私たちがお手伝いをしている方は7人いらっしゃいますが、その方たち以外で、あまり身体を動かしたりしていない方もいます。

＝自分たちがお手伝いするように言われた方じゃなくても、心配な方がいたら、是非声をかけてレクに参加してもらったり、話を聞いてあげたりして、ご状態を把握して、心配な点をリーダーにつなぐべきでは？とアドバイス＝

そうですね！それがあと2日でやることですね！頑張ります。

それから、今日「中心会の方が社協の方と来てたよ」と周りの方が伝えてくれました。会えなかったけど、とってもうれしかったです！

三浦副所長より

1週間という少ない時間の中で、少しでも役立ちたいという気持ちで、自分でできることを探して、関わってくれています。あと2日ですが、皆さんを支えてくれると思います。